

○図工科の課題分析と具体的な授業改善計画 (令和2年度授業改善プラン 入新井第一小学校)

*令和元年度の改善プランの検証

材料、道具、表現の領域を考慮しながら年間の学習を進めた。また、一人一人の表現を十分に発揮できる題材を工夫した。今年度は道具の扱いについて、安全正確に技能を習得できるよう題材配置や指導法を工夫する。児童の興味や思考の道筋を理解しようと努め、過程の評価を充分に行うことで、児童が最後までじっくり作品に取り組むことが出来るよう支援したが、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。継続して題材開発を行うなど、研究を深め、授業力を向上していきたい。

*令和2年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
知識・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> はさみやのりの使い方が上手でない児童がいる。 クレパスの性質や絵の具の色作りを生かした塗り方ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な表現方法を学ばせたり、様々な造形活動を経験させる。 失敗例を教師が見せることで、技能を向上させる。 使用する素材を工夫する。 	
	二年	<ul style="list-style-type: none"> はさみやのりなど工作で使用する道具の特徴を把握し、その特徴を生かした作品作りができる児童が多い。 段ボールカッターなど、新たな用具の使い方を習得し、作品作りに生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ材料、道具でも自分の表現したいことに合わせて使い方を工夫できる児童がいる。しかし一方で、よい発想があってもそれぞれの材料のよさを生かしきれない児童もいる。 道具の特性を生かした使い方を指導する。 道具を繰り返し使い、その使い方を体得する。 	
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したいことに合わせて水彩絵の具、はさみ、のり等技能を働かせて表現することができる。 のこぎりや金づちなど新たな用具の使い方を習得し表現の幅を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が新しい技能を学ぶ際には、安全、適切な使用を目標とするが、児童が主体的に新しい技能に関わることで、その特徴に気づき、次回以降の題材に柔軟に応用できるような安全で確かな技能につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに合わせて材料や用具を扱う楽しさを味わうとともに、その経験が深まるような指導の工夫をする。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 道具や材料、描画材の特徴を生かして表現することができる。表したいことに合わせて個人的に材料を追加したり、方法を相談しに来る姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりのイメージや思いに合わせて、道具や材料を主体的に選択し、表すことができる力や道具を安全正確に使用できる力を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の見取りに努め、発想や構想に合わせた表現方法を共に探ることで、児童が自分の表現に合わせて方法を取捨選択する能力を高めるよう工夫する。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いやイメージを実現するために材料や用具の特徴を生かしてつくることことができる。つくりながら考え表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの思いやイメージに合わせて、道具や材料を主体的に選択し、試行錯誤しながら表すことで、これまで培った技能を安全や正確さに気を付けながら適材適所応用できる力を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材や道具の経験を振り返ったり、構想に合わせた表現方法や道具を選択できる導入や、環境づくりを工夫する。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したいことに合わせて前学年までに積み重ねた技能や経験を生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現を客観視したり、いくつかの表現方法を試した上で選択するなど、よりより創造活動を目指した能力を育成したい。安全や正確さに気を付けながら活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の造形的な経験が生かせるような指導を工夫し、自分らしい表現の工夫を追求できる環境づくりに努める。
図工 思考・判断・表現	一年	<ul style="list-style-type: none"> 課題や教材に対して、自分なりの方法で、表現することを楽しみながら活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の発想や構想が広がらず、他人の模写や見本の模写で終わってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に課題の導入で、作品の発想のアイデアを出し合い、発想が広がるように指導を工夫する。 思いを表現し、楽しんで創作できるような環境や教材を工夫する。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 描きたい、つくりたいという意欲を大切にしながら、作品を仕上げる事ができる。 描いたり、つくったりする中で、試行錯誤をくり返しなが、自身の完成イメージに近づくよう、表現方法を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い通りに作品づくりが進まない場合など、そのためにどうするか別の発想が思い浮かばず、考えこんでしまう児童もいる。 作品への発想や構想が広がらず、見本の通りに作成して終わってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由な発想を促すため、教師見本や表現・材料のパターンをいくつか紹介し、発想が広がるように材料を用意する。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> テーマや描画材、材料や道具などから、思いをもったり自分らしい表現や計画を思いついたりして活動を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に思いついたことを表そうと意欲的に取り組むが、いろいろ試しながらじっくり材料に親しんだり、表し方を探る力も身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 試しながら表したり、次第に表したいことや用途が明確になったりするような指導を工夫する。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> テーマや描画材、材料や道具などから、思いをもったり自分らしい表現や計画を思いついたりして活動を進めることができる。描き足したりつくり変えたりしながら構想を深めている姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な材料や道具、表現方法に接し、試行錯誤できる範囲を広げる必要がある。安易に終着を決めず、じっくりと自分の表現に向き合っていく姿勢を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 新しい表現方法や材料に接する際に、形や色、材料の特徴、用途などを考え、表現方法を構想することを楽しむ姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの経験を総合的に生かして、試行錯誤しながら自分らしい構想を練り上げることができず、安易な表現に終始し達成感の乏しい活動に終始してしまう児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしいテーマや表現方法を追求しながら活動できるよう、考えたり、試行錯誤をしたりしながら題材に取り組めるような授業の流れをつくる。

	六年	<ul style="list-style-type: none"> ユニークな発想や、自分の見つけた工夫に愛着を持ってじっくり取り組むことができる。試作してからつくるなど、構想してつくる姿がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしい表現や美しさを追求する能力だけでなく、用途を考えるなどし、目的や条件を考慮しながら構想する能力も高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 図画工作分野だけに限らないこれまでの経験を総合的に生かしながら制作するような題材を工夫して提示し、児童の構想に柔軟に対応する。
主体的に学習に取り組む態度	一年	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんで、意欲的に取り組んでいる児童が多い。色や形を工夫することより、速く仕上げることに気持ちが向いてしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 色をしっかりと塗り込んだり、自分の思った形をつくったりすることが難しく、楽しく表現する気持ちがもてない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習素材や表現方法などを様々に提示したり、集中しやすい環境を工夫したりする。また、段階的に技能を習得させる。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 題材や素材の材質などを楽しみながら、意欲的に取り組んでいる児童が多い。 熱心に考え、発想豊かに作品作りに取り組む姿が多く見られる。 仕上げまで丁寧に取り組むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージ通りに作品作りが進まないなど、技能が追いつかない時に、途中で諦めてしまう児童も見られる。 画用紙の大きさに対して絵が小さくなってしまふ場合が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の導入を工夫し、児童の制作意欲をより向上させていく。 対象をよく見て、画用紙に大きくのびのび表現できるよう指導を工夫する。 集中しやすい環境や材料を工夫し、自分なりの表現方法に自信を持たせていく。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 題材や材料に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。自分の作品に愛着をもちながら制作できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示の理解が難しかったり、思いに技能が追いつかなかったりする児童がみられる。 安全や規律について自覚させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人がどんなことをやろうとしているのかの見取りに努め、個別支援をする。 制作過程や安全規律についての評価を伝え、肯定感を味あわせながら意識させる。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 題材や材料に興味をもち、積極的に取り組もうとする。友人の活動や作品に興味をもち、互いに意欲を高め合いながら制作する姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いをもって最後までじっくり取り組める児童が多い中、発想が深まらず、課題にじっくり取り組めない児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程で、作品に自分らしい工夫を凝らしたり、新しい技能に親しんだりして、達成感を感じられるきっかけを得られるように環境を整える。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 新しい表現方法や、材料に興味をもち授業に臨んでいる。一方、真摯に制作する姿勢に向かいにくく、制作の醍醐味を味わっていない様に感じる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使う道具の種類も増え、活動の範囲が広がっている。一人一人が自分らしい思いをもって活動できるよう工夫する。導入などで、その時間の目標を明確にし活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が積極的に取り組めるよう授業環境を整える。自分らしい活動を充実させることの大切さを繰り返し伝えていく。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしいテーマや表現方法で表すことを楽しみ、意欲的に活動をする児童が多い。一方時間いっぱい活動に集中することが難しい児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標が明確な題材に対して達成しようとするが、自分らしい工夫を凝らして制作したり、こだわって制作する意欲が薄い児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが見つけた自分らしいテーマや表現方法をその都度明確にしながら活動できるよう支援し、柔軟に環境を整えることで、題材ごとに達成感を感じられるようにする。